

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008 年 11 月 27 日
調査実施の時間	開始 10 時 00 分 ~ 終了 15 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 松山 あじさい ( 鹿児島県 )
-------------------	-----------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	石松 成子
	氏名	浜田 千里
事業所側対応者	職名	管理者 ・ 計画作成担当者
	氏名	鈴木 稔 ・ 新地 正人
	ヒアリングを行った職員数	4 名

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
  - 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
  - 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676700083号		
法人名	社会福祉法人 松山やっちく会		
事業所名	グループホーム 松山あじさい		
所在地	鹿児島県志布志市松山町秦野字松ヶ迫1139番地-1 (電話) 099-487-8200		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成20年12月29日

【情報提供票より】 ( 20年 10月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤15人, 非常勤 3人, 常勤換算17人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	500 円	
敷金	有 ( 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要 ( 10月30日現在 )

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	8 名	要介護4	7 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.2 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下クリニック・中原歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夏祭りや運動会などの季節の行事や災害訓練を、同敷地内にある特別養護老人ホームと一緒にするなど、協力関係や入居者間の交流に努めており、入居者は安心して暮らし、家族からも信頼されているホームである。職員は過剰な支援・干渉を控え、入居者のペースを大切に、自宅と同じように、その人らしく過ごせるように理念にそった支援を実践している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	新人研修プログラムを作成し、異動による影響など最小限に抑えるよう工夫・改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員に説明し、それぞれの意見を記入してもらい、スタッフ会議で課題や改善点など話し合い、評価を活かして具体的なサービス向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で委員から多くの意見や助言を引き出し、食事や職員の紹介、地域交流、災害時の地域住民の協力体制づくり等の意見を、スタッフ会議等で話し合いサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口について重要事項説明書に明記し、家族会や運営推進会議に家族代表にも参加を呼びかけ、意見や不満・苦情を聞く機会を設けている。意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人ホーム主催の季節の行事に参加したり、中学生や専門学校生の研修の受け入れ、地域の空き缶拾いなどの奉仕作業に参加するなど、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、地域密着型サービスとしての役割を考え、ホームとしての理念をつくり、目標にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を全員で唱和し、目標としている。ホームの見やすい所に掲示し、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同敷地内の老人ホーム主催の夏祭りや運動会に参加したり、中学生のボランティアや専門学校生の研修等受け入れている。地域の空き缶ひろい等奉仕作業に職員も参加し、地域の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員に説明し、それぞれ記入してもらい、スタッフ会議で課題等話し合い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、地域住民代表や家族代表からの意見などサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状報告や課題についての相談等、日頃から連携を図っている。法人主催の行事への参加など協力関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子などを定期的にホーム便りに写真などでわかりやすく報告し、健康状態はそのつど電話等で連絡している。入り口のボードに職員の写真を貼り紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、運営推進会議に家族代表に参加を呼びかけ、家族からの意見や不満を表す機会を設けている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用や引継ぎ時は、新人研修プログラムを作成し、認知症や対応方法などを研修して、入居者に影響がないよう配慮・工夫して、サービス向上に努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内でテーマを決めて開催される勉強会や、地域での研修会に交代で参加し、学ぶ機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修会等に参加し、同業者との交流の機会がある。お互いに相談するなど、共にサービス向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人・家族に見学をすすめ、入居後も家族の面会などお願いし、自然に馴染めるよう連携を図り、安心して過ごしてもらうよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊敬し、昔の話や保存食の作り方などを教えてもらいながら、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での言葉や行動・表情・家族からの聞き取りなどから、それぞれの思いや意向を汲み取るよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすための、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、更新時に見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎や通院介助・墓参り・お寺参り・散髪等を、家族と相談し柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する主治医の受診や往診など、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、入居時や状態変化時に方針を説明し、主治医や家族・関係者と話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のプライバシー保護への意識向上に取り組み、やさしい言葉かけや尊重した対応ができている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、入居者の状態に合わせ、ゆったりと落ち着いて過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなメニューを話し合い、買い物に同行したり、片付けなど一緒に行っている。職員と会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、一人ひとりの希望にそった入浴支援を行っている。声かけや工夫で楽しく入浴できるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の有する力をふまえて花植えや草取りをしたり、将棋などの楽しみごとや役割を把握して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物などの他に、ドライブ・花見・知人宅訪問など機会を見つけ、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の状況を把握しており、安全面に配慮し、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の消防訓練や避難訓練のほか、併設の老人ホームとの合同訓練など年4回実施している。災害用の備蓄や地域の協力体制もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については、チェックし記録している。栄養バランスは献立表を併設の老人ホームの栄養士に見てもらいアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにソファが置かれ、畳コーナーやマッサージ機・加湿器など、入居者がゆっくりとくつろげ、安心して過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や衣装ケースを持ち込み、鉢植えの花や家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。